

幸区区民会議第1回専門部会B「子育て・環境・魅力づくり部会」摘録

開催日時 平成18年9月7日(木) 午後6時35分～8時40分

会場 幸区役所5階第2会議室

参加者

専門部会B委員 今井淑子、小保方健次、小島春男、酒井道子、庄司佳子、菅野勝之、
成田信子、根本健、深瀬和則、松世三重子
葉山直次(部会委員ではないが、全体運営の立場で出席)

事務局(総務企画課) 高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員

(株)CSK 福田研究員 (以上 16名)

司会進行：事務局 北谷

開会(事務局：北谷)

専門部会B「子育て・環境・魅力づくり部会」部会員の確認と、葉山委員長が、「安全・安心・すこやか部会」に所属したことの報告。

事務局及び専門部会コンサルの紹介。

本会議の情報公開に関する委員の了承。

第2回全体会議までの当面のスケジュール(専門部会を2回行うなど)の確認。

1. 正副部会長の選出について

「子育て・環境・魅力づくり部会」の正副部会長が以下のとおり決定した。

部会長：今井淑子委員 副部会長：松世三重子委員

(今井部会長) 皆さん、お力添えをよろしく願います。

(松世副部会長)「夢コンサートを」提案している。大変な役をおおせつかったが、幸区の魅力づくりに役立てればと思う。

2. 「魅力づくりと市民活動の推進」の具体的な取り組みについて(以下、司会進行は今井部会長が担当)

菅野 議論に入る前に、次の点について、企画運営部会で検討してもらいたい。

前回の全体会議の中で、自分は専門部会Bのテーマに関する提案(市民活動・利用施設のネットワーク)をしたが、推薦母体である「幸区まちづくり推進委員会」(以下、「推進委員会」)の主となる活動テーマは防災、安全であり、専門部会Aに関するものであるから、A、Bどちらの専門部会に入るか決めかねると発言した。しかし、最終的にはBに入れられた。Bに入ったことを「推進委員会」の運営会議で報告したところ、他の委員からそれはおかしいという意見が出たため、当面は、専門部会Bに参加し、専門部会Aに関しては傍聴し、書面で意見を提出するという事で合意を得た。このような場合に、部会の移動等が可能か、企画運営部会で検討してもらいたい。

今井 A、Bどちらの部会に入りたいのか。

菅野 「推進委員会」の運営会議で当面はBに参加し、Aについては、毎回書面で意見を出すことに決まった。移ることが可能かどうかを議論してほしい。

庄司 可能であるなら移りたいのか。

菅野 移動が可能だということを「推進委員会」の運営会議会で報告し判断する。「推進委員会」の代表として参加しているのであり、個人では判断できない。

小島 専門部会Aにかわった方がいいのではないかな。

菅野 専門部会Bでも意見を言いたい。

今井 「推進委員会」の中ではA、Bどちらが主力なのか。

菅野 「推進委員会」の中では、防災やまちづくりではないかという意見があった。しかし、魅力づくりにも取り組んでいる。全体会議の時に確認しようと思い、手をあげたが、時間がなく指名されなかった。

庄司 希望がどちらかはっきりしないと、企画運営部会でも決められない。

菅野 両方やりたい。区長からも意見を聞かれた。一度決まったことを区長権限で変えることはできないので、現状で乗り切ると言った。企画運営部会の中で、そういう場合にどう対応するのか検討してもらえばよい。

今井 「推進委員会」のメインテーマとなる部会に入り、サブに関しては文書で意見を出すということではどうか。どちらのテーマが「推進委員会」のメインなのか。

菅野 どちらのテーマも重要であり、どちらか一方とは言えない。一方のテーマが重要だなどと言ったら、「推進委員会」自体が解体する。個人的には防災地区カルテなどに取り組んできたが、委員長の立場としてはどちらとは言えない。部会に関しては今のままでいいが、企画運営部会で討議してもらいたい。

松世 両方に出たいということを経営運営部会で討議し、その結果を踏まえ「推進会議」で検討するということがいいのかな。

菅野 それでいい。

今井 区民会議の規則で、両方の部会に籍を置くことはあり得るのかな。

事務局：北谷 部会に籍を置くというより、区民会議委員として市長が委嘱をする。推進委員会が推薦団体であり、推薦団体には他委員のように、様々な母体がある。その中で選択したことなので、まちづくり推進委員会の中で話してもらおうことかと思う。

庄司 企画運営部会で検討する。

今井 議論に入る。まず、事務局から資料の説明をお願いしたい。

事務局（高橋主幹）が配布資料を説明し、意見交換を行った。なお、配布資料はあくまでも委員が検討する上の参考事例であり、行政がこれをやってくれと委員に押し付けるものではないことを確認した。

今井 提案委員から、補足意見を願います。

菅野 「さいわい区市民活動ガイド」が一冊しかないなので、現在増刷している。増刷し、区民会議委員に配布する。

問題となっているのは、文化協会 72、幸市民館 60 の団体が記載されている。しかし、幸区内のサークルはこれだけではない。それをどうまとめていくか。自分たちで交渉できる団体、(財)かわさき市民活動センターに登録しているサークルがある。それらは公表してもよい団体だ。文化協会と市民館は公表してよい団体だが、まずい団

体もある。

次に、音楽によるまちづくりの推進で、幸区の中には、マリンバの奥平さん、バレエの島田さんなどプロの音楽家がいる。島田さんは文化協会に入っている。プロの芸術家は個人のプライバシーの問題で発表できない。プロの芸術家をひとりひとり探し出し、発表してもいいか確認しようという話も「推進委員会」で出たが難しい。プロの人をどう扱うか意見が聞きたい。ネットワークするときに、プロがわかれば協力を得て、活躍、支援いただける。奥平さんは協力すると言っている。ネットワーク化の難しさについて、意見を聞きたい。

今井 「魅力づくりと市民活動の推進」ということで、市民活動という言葉がたびたび出る。うるさく言うようだが、市民活動に関して、事務局が作った資料がある。

菅野 一つだけ質問がある。「市民活動を推進することの効果（意義）とは」とあるが、ここに4つあげた元の条例なり根拠は何か。

北谷 川崎市市民活動等支援指針策定委員会というものがあり、その前段で、学識経験者等の方に入っていたいただいた会議がある。その中で提出された。

菅野 部会長から次回、その資料を提出するようお願いしてくれ。

事務局：高橋 それは何を確認するためか。さきほど申し上げたように、市民活動について、皆さんで議論していただく際の参考として資料を提出した。その資料内容を受け、こういうことが足りない、こういうことが重要だという話をするなら資料を出すことは構わない。菅野委員としては何を確認したいのですか。

菅野 まちづくり推進委員会が第2期に入る今から3年半前、まちづくりとは何をやることか論議した。この4つの他に、一番最初に出たのは「区民生活が豊かになる」こと。これが原則だ。そのために俺たちは、まちづくり推進委員会をやるのだということだった。この4つは知っていたが、一番は、「区民生活が向上し、区民生活が豊かになる」ことを、幸まちづくり推進委員会はめざす。歴史をやるにしても、防災をやるにしても、いろいろなまちおこしをやるにしても、まちを豊かにする、区民生活が豊かになることが最前提にあり、その上で一歩入らなきゃいけないということがあっただけ、確認をした。

今井 それは、市民活動を推進する効果（意義）に、もう一項目足すべきなんじゃないかという意見か。

菅野 そのとおり。どんな資料があるか知らないが、大学の先生か何かが書いた資料があるのか。

今井 市民活動をどういう活動ととらえるのか確認しておかないと、市民活動の活性化や市民活動のネットワークといっても話が進まないと思う。市民活動について、皆さんに意見をもらい確認したい。事務局が「市民活動」というのはどういう活動を4つにまとめた。たぶんこれは、川崎市の市民活動支援指針からとったものだ。川崎市では、これを市民活動と呼び、指針を出している。この部会でも、それに基づき市民活動としていいかを確認したい。

事務局：高橋 市の定義だからというよりも、こういうことが市民活動といわれてきている。さっき言ったように、これ以外にもあるだろう。部会長がおっしゃるように、まさしく市民活動とは何かというところから確認し、スタートしていく上で示した。

今井 川崎市の市民活動支援指針の中にある、ひとつの例ということか。

事務局 高橋 それを参考にしている。

今井 川崎市の市民活動支援指針の中に、「市民活動とは」として、この4つが載っている。

今後部会で話し合うときに、市民活動とはこの4つという認識でよいか。

庄司 市民活動と市民活動団体とは多少趣が違う。ネットワークするにしても、市民活動、サークル活動、趣味的な活動等と言われているものがある。市民館、日吉分館で多様な活動をしていると、サークル活動が市民活動に発展するものがとても多い。そういう方向で進んでいると感じる。あくまで、例えばサークル活動であっても、中には市民活動もあるということ、一応基礎として認識しておいていただきたい。

今井 市民活動に発展する可能性があるということ認識しておくということですね。

庄司 そういう可能性もあるし、未知なる力を持っていると思う。サークル活動の中にも、市民活動をする可能性が多分にあるということが、前提としてあっていいと思う。

今井 非営利活動で、公益性があり、営利を目的としない活動で、無償のボランティア活動か自ら事業収入を得て運営される非営利の組織活動まで、幅広い活動を含むとある。なぜしつこく言うかということ、市民活動でお金をとるのか、NPO ってお金をとるのかと言われることがある。自ら事業収入を得て運営される、非営利の組織活動まで、幅広い活動を含む。

さきほど庄司委員がサークル活動でも市民活動に発展する可能性があると言った。確かにそうだと思うが、発展しないような、仲間うちの5、6人で先生を呼び、自分たちだけで活動しているものは、市民活動とは呼べないのではないか。要するに、社会に貢献しない、ただ自分たちで勉強会をしているのは、市民活動とは呼べない。

4つ目の継続的・発展的活動とある。一回何かポンとやって終わるものは、市民活動とは言わない。

市民活動支援指針の4つの認識で進めさせていただいてよいか。

菅野 人数で制限するのはどうか。

今井 人数ではない。たとえばということだったので、少人数でも立派な活動はある。

菅野 川崎市アマチュア無線情報ネットワークは全市でも約45人、幸区は4、5人しかいないが、防災のときには互いに連絡をとりあうことになっている。ですから人数ではない。

今井 一人でも立派に市民活動をしている方もある。それが市民活動団体の場合もあり、市民活動をしている個人ということもある

深瀬 これまでの経験で、この4つ以外に加えることはあるか。

今井 ない。誤解されている部分やごっちゃになっている部分があるので、話を進める上で、きちんと認識を統一しておこうと思った。

成田 この4つを理解すればよいのか。

今井 そうだ。例えば、企業が市民講座のような公益性がないものやったり、仲間内でやっている。これらを市民活動と言うなど、混乱した部分がある。なので、市民活動とはどういうものを市民活動というのか認識していかないと、話が混乱する。

深瀬 社会に貢献活動ということも必要だが、社会を動かす、変える活動は市民活動ではないのか。

今井 活動である。大小に関係ない。例えば、近所の高齢者をケアするのは、立派な市民活動。

二番に事業収入とある。自ら事業収入を得て運営される非営利の組織活動とあるが、運営のために資金を稼ぎ、それを場所代や人件費に使うことは問題ない。そこが誤解される。万が一、利益が出た場合、人件費などをひいて、それを社会に貢献するように使えば問題はない。

成田 市民活動をネットワークする場合に、どこまで入れるか。サークル活動が市民活動に発展してく場合があるとすれば、どこで区分けをするかが難しい。

今井 だから、市民館に登録している団体を全部入れてしまうというわけにはいかない。

庄司 そう思います。サークル活動の中にも、市民活動的な側面の活動をしているところがある。まず、市民活動団体から地域に入って行く。サークル活動から、福祉的な活動へと入っていくものもあるし、自分の学習を社会へ還元しようと思わるところも多い。実際、そういう活動を個々にしているところは入れて、活動をしていないところは入れなくてよいし、入ることを望まないのではないか。

菅野 わかった。難しいな。

今井 難しい。だから、その辺は成田さんが言った、市民活動ネットワークと言ったときに、どこまでネットワークに入れていくか。確かに自分たちが認識していなくても、市民館で活動しているサークルの中には、社会に貢献していて、本当は市民活動という例もある。

菅野 逆に言うなら、必ずしもそうではないものもある。

庄司 市民館だけに限らず、町内などにもいろいろな活動がある中で、市民活動団体だけに限ると数が少なくなる。

菅野 僕もそう思う。ただ、自分たちだけでやっている活動でも、それを幸区の文化の担い手であるという見方をするかどうかだ。それは市民活動ではないと言われれば、そうだと思う。しかし、幸区全体の文化の担い手であるとは言えると思う。

庄司 活動している団体がネットワークを組んで、同じ目標に向かって一緒にやっていきたいのかやっていきたくないのかということは、選択すればよいことで、難しくなくできるのかもしれない。

今井 ネットワークに入りたいとって情報、あるいは連絡先などを提供するところは、広く活動したい、ネットワークして何かやりたいと思っている団体だから、そういう意味ではある程度選択できる。

庄司 ネットワークすることで、逆に社会的な貢献活動へとつながっていくかもしれない。

今井 逆に自分たちだけで固まってやっているところは、ネットワークしてこない。

では、次に庄司委員から報告をお願いします。

庄司 地域の自然と歴史文化の保全、地域資源と歴史資源のネットワークの形成を提案した。私は日吉地区に住んでおり、区役所のスペース Cha-Cha Cha の活動などに地理的に参加できない。歴史や自然など多様な財産が日吉地区にはある。日吉地区という顔の見える関係の中で、資源や市民活動などのネットワークを形成できないか。個々に動いているものを連携することで、コラボレーションが生まれ、総合的なまちづくりが動く。区全体では、IT のようなものを通してしか連携できない。地理的なものを加

味した顔の見えるネットワークを組み立て、その上で区全体へつなげる。ワンステップとして地域を限定しネットワークする。自然であれば矢上川で遊ぶ会、健康の森の会がある。歴史の会や子育て支援の会などあるが、ばらばらだ。商店街と一緒にやれるものはないか、子育てグループと一緒にできるものはないかといったことを模索したい。

幸市民館と役所の協働事業で、日吉地区のネットワークづくりは進んでいる。加瀬山の会、矢上川で遊ぶ会、日吉の自治会で話し合いをはじめた。少しずつ声をかけ、みんなが何をしたいのかを考えていきたい。

今井 シニア人材と IT の活用による団地の活性化を提案した。いきなり幸区全体をとらえてもまとまらないので、モデル的に地域限定とした。河原町団地は 7,300 人いて、4,600 世帯あり、コンパクトな地域だ。郵便局、商店街、学校、保育園もあり、小さな町になっているので、一つのモデルになる。商店街と学校が何をできるかなど実験ができる。

河原町団地は 65 歳以上が 30%、60 歳以上は 40% と高齢化している。団地は同じ世代の人が入居するので、一斉に歳をとることが問題だ。高齢化団地のモデルとして、高齢化対策をどうするかに取り組む。2007 年問題に対応したシニアの能力活用にも取り組む。幸市民協働プラザが河原町団地内にできたので、そこも活用できる。シニア IT リーダーを育成し、河原町団地内にある市民協働プラザで、インターネット講習を実施する。団地内訪問サポートという。社協や市民活動センターが同じようなことを考えているが、市全体で開催されても参加は難しい。団地内なら何号館何号室で参加できる。高齢者のサポートに市民活動センターや社協が取り組むときの資料として提供できる。

情報の共有には、さいわいコミュニティサイトがある。どう連携していくかのケースになる。

松世 「夢コンサート」を定期的に区役所で年 6 回、日吉合同庁舎で年 2 回開催している。ソリッドスクエア、新川崎三井ビルなどでも開催した。第三木曜日の昼休みで限られた人しか参加できない。参加者は高齢者が多く、毎回 200 人前後が楽しんでいる。目的は、音楽を通して感動し、元気になること。その場に出かけ、みんなとふれあいが生まれることで元気になれる。区役所でやることで、行政への理解が深まる。

6 人の実行委員で企画運営している。11 月までに来年のコンサートのスケジュールを決める。その中に、子育て支援や河原町団地への出張しコンサートを組み込むことは可能。来年 10 周年記念を予定している。夢コンサートは計画したとおりに実施しているので、今日やってくれと言われてもできない。コンサートで皆が潤ってくれるとよい。子育てに悩んでいる人、病気の人などには、コンサートだけでなく、コンサートの前に子育て講演や医療講演をするなど抱き合わせてもよい。

今井 方向付けとして、こうアクションに取り組んではどうかというご意見を願います。
庄司 幸区全体で一挙に進めるのではなく、小さなところで前段階としてやり、最終的には市民活動の拡大へとつながる。モデル的な事業と音楽を結びつけることで、魅力の上乗せ企画ができるのではないか。

IT リーダーの育成の中で、団地内訪問サポートとは、どういうものか。

今井 さいわいコミュニティサイトの見方がわからない人をサポートする。体が不自由になってもパソコンで情報を取り、メールを送る。友達とメール交換ができるレベルで、パソコンの操作などはしない。コミュニティサイトが幸区の情報を発信するよいものだとすれば、誰もが見られる状態にしないといけない。体が不自由になって区役所にチラシを取りにいけなくても、HPを見ればイベントの内容や相談会の内容がわかる。

情報弱者をつくらない。機材がない人、買えない人には、東芝から遊休パソコンを団地内の人に提供してもらおう。情報を見、交換するだけなので、新しいパソコンでなくてもよい。パソコンでの交流がきっかけとなり、幸協働市民プラザに集まり、顔の見える交流をしてもらおうとよい。家にこもってインターネットをするのではない。

成田 無線 LAN がないと大変なのではないか。

今井 有線は入っているが費用はかかる。

菅野 塚越団地は、有線がすべて入っている。

今井 企業をうまく巻き込みたい。日立もキャノンもある。幸区がそういう実験をすれば、乗ってくれるのではないか。ただ集まれといっても、テーマがないと集まらないので、夢コンサートを組み入れる。音楽があると集まりやすい。気軽に来られるように。さいわい緑道で青空コンサートをやり、それを目当てに集まってもらう。

松世 外のコンサートは、楽器によっては難しい。騒音の問題もある。

今井 河原町小学校が廃校になったので、体育館などを使わせてもらえるとよい。探せばチャンスはある。子育て相談会などを組み込めば、若いお母さんが来る。

成田 お母さんはコンサートに行きたくても、まず子供が騒いだらどうしようと思っけて行けなくなる。子供も一緒にどうぞとなれば、視野が広がる。

松世 静かに聞かせることも、教育のひとつだ。子供の勉強の場になる。

成田 子どもも一緒に参加することを事前にきちんと確認したうえで OK になれば参加できる。

松世 子どもも一緒となれば、演奏内容や演奏者も決まってくる。

今井 団地でコンサートをし、子供や若い人が来ることで、高齢者にもよい効果がある。

成田 各町内に声かけをすれば集まってくる。

根本 夢コンサートの資金はどうなっているか。

松世 区役所が主催なので区から出る。実行委員は仕事をもっており、年に 10 回程度しかできない。ポスターなどすべて手作り。演奏者を決め交渉から始まる。限られた予算でやるので難しい。試みに来年実施し、成功すれば、また次回ということもある。

今井 夢コンサートは無料にし、場所が確保できれば、ストリートミュージシャンの活動の場として位置づけられる。若いミュージシャンは活動の場がないという。発表の場を与えれば、謝礼はいらない。

松世 音楽家は食べていくのが大変。会場までの交通費、食費、楽器の移動や管理費などがかかる。アーティストを育てることも目的なので無料というわけにはいかない。

今井 区役所がミュージアの入り口でのコンサート者を募集している。毎年 4 回やる。区の予算でやっている。

小保方 聞くだけでなく、楽器に触れたい、教えてほしいというのは無理なのか。

松世 演奏者による。

小保方 子どもは楽器に触ってみたい。

菅野 こどもたちがいじれる楽器をそろえていく。

庄司 日吉分館の3周年で、洗足学園の学生に来てもらい、楽器に触れる場面を作った。大人が大変楽しみ満足した。音楽によるまちづくりの推進として、若い人とコラボレーションしたい人もいる。聞くだけでなく、演奏するきっかけとなる試みがあるとよい。

松世 希望に合わせて演奏家を探すこともできる。

庄司 具体的に、ここでこうしたいということがないと動けない。若い人が音楽をする場、機会が幸区にできるとよい。若い人が元気なら、まちは活性化する。

根本 ここに提案されている幼稚園、保育園、企業などでやれるとよい。保育園は演奏者と関係者が無料でやろうとしても大変だ。一回やれば方向性が出てくる。子供の時から音楽に親しめれば、問題になっている子供の犯罪等も減少する。10年くらいのスパンで取り組む。10年経った結果、よかったなと思えるように。交渉だけでも相当かかるので、新たに開拓するのは難しい。6人では大変。新しく取り組むなら、スタッフをどうするか。企業に協力してもらおうなどある。老人ホームなどは小さな音楽会があるのでやりやすい。あれもこれもだと大変。案としてはいいが、的を絞ってやる。

松世 次回くらいまでに、どの方向でやるか決めていけるとよい。

今井 音楽を取り入れ、子育て、高齢者、ネットワークをやるという方向づけだ。

酒井 地域限定の動きとして、日吉と河原町が出た。幸区全体では的が絞れない。すでにプランが進んでいるところで、みんなで協力してやる形がよい。音楽を入れる形で、順繰りに進める。核になるものを決める。河原町団地では、高齢化団地の活性化のコミュニティサイトを中心にして、肉付けするような取り組み方をしてはどうか。子育て支援センターに、ぜひ出張コンサートに来て欲しい。あちらでも、こちらでも、ではなく、モデルをひとつつくる。

今井 モデルを設定し、取り組むということでよいか。

菅野 日吉分館に防音室がある。稼働率を次回までに知りたい。小倉小学校では、遠いから行かないと言っている。

庄司 コーラス、楽器演奏、ダンスなどに活用されている。二部屋借りないといけないので料金は高いが稼働率はよい。

今井 いい施設でも、そこまで行くには大変だということ。

菅野 太鼓などは特殊な楽器なので、区内に一箇所施設があれば遠くても行く。

今井 地域を限定し、音楽を取り入れた方向で進めよう。

3.2 番目に検討する審議テーマについて

2番目の検討テーマは、「安心して子育てできる環境づくり」に決定した。

4. 次回の検討テーマ及び日程について

第2回専門部会Bは、以下の日程で開催することに決定した。

開催日時 10月4日(水) 18:30 開会

会場 幸区役所第1会議室

閉会